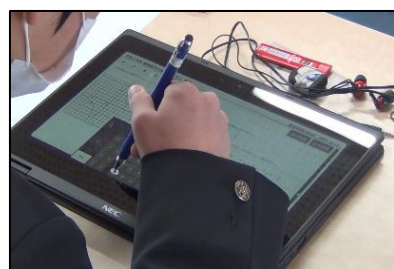


学校教育 ICT元年を振り返って

今年度も残りわずかとなりました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対応に苦慮した1年間でしたが、1人1台端末などのハード面が充実したことにより、ICTが学校教育を支える基盤的ツールと言えるまでになっています。臨時休業を余儀なくされた学校もありますが、ICTを活用した学習指導により、子供たちの学びを止めない取組が着々と進められています。子供たちがICTに触れる度にスキルをどんどんと高めている姿に、驚くばかりです。そんなSociety5.0時代を生きる子供たちの能力を最大限に引き出すためには、教員もICTを使いこなせるスキルが不可欠であるということを実感した1年でもありました。



インターネット等に関する調査より

ところで、ICTは子供たちにどのくらい浸透しているのでしょうか。先日実施した「インターネット等に関する調査」で明らかになった、子供たちが自分専用の携帯電話またはスマートフォンを所有している割合は次のとおりです。

小学4～6年生 (%)			中学生 (%)		
R3.1	R4.1	増減	R3.1	R4.1	増減
48.1	50.6	2.5増	72.8	77.7	4.9増

携帯電話又はスマートフォンの所有率は、年々上昇傾向にあります。さらに、1人1台端末が整備され、家庭でも学校でも子供たちがICTに接する機会が増えたことが分かります。ICTを活用した教育を推進していくためには、私たち教員も、情報セキュリティ、情報モラルについて、常に学び続ける必要があります。

E I L S (エイリス) について

全国に先駆けて、県内全小学校の5年生、全中学校の2年生を対象に、コンピュータを使ったCBT (Computer Based Test) 版県学力診断調査を実施しました。

E I L S (EHIME ICT Learning System) の活用により、紙を用いる方式のPBT (Paper Based Test) で



は不可能であった動画や音声を用いた出題などのC B Tならではのよさ、自動採点機能による業務の縮減、調査結果の分析など、I C T化による学びの変革を大いに感じられるものになりました。

来年度のE I L S本格的運用に向け、ヒントやタイムトライアル機能を追加したC B T習熟度テストや発達の段階に応じたタイピング練習などさらなるバージョンアップを計画しています。E I L Sの改善の参考にするためのアンケート（所要時間約5分）を実施しています。右のQRコードからアクセスできますので、御協力をお願いします。



教員のI C T活用スキル向上について

6月と11月に、次に示す「愛媛の教員が身に付けるべきI C T活用スキル」に関しての調査を実施しました。

- ① ウェブ会議システムを用いて、遠隔授業をすることができる。
- ② クラウドサービス等を用いて、即時的なアンケート集計や小テストを活用した振返りができる。
- ③ クラウドサービス等を用いて、教材の配信・収集での振返り等ができる。
- ④ 動画を撮影して著作権や肖像権等を侵害しないよう配慮して編集し、教材を作成できる。
- ⑤ 動画投稿サイト等を活用し、著作権や肖像権等を侵害しないよう配慮して、インターネット上に動画を掲載できる。

2回の調査結果を比較すると、先生方のI C T活用スキルは着実に向上しているものの、今年度の目標値には到達できていませんでした。そこで、各校でオンライン研修が実施できるよう、県総合教育センターのHPに研修動画等を公開しています。

下のQRコードからもアクセスできます。動画資料の視聴だけでなく、右のようなPDF資料をプリントアウトすることもできます。



この1年で、I C Tが学校教育に大きな変化をもたらしました。子供たちは、この変化を好意的に捉えているようです。私たち教員も、先ほど紹介した研修動画等を活用して、更にI C T活用スキルをアップデートし、子供たちと共に成長していきたいものです。